

NEWS RELEASE

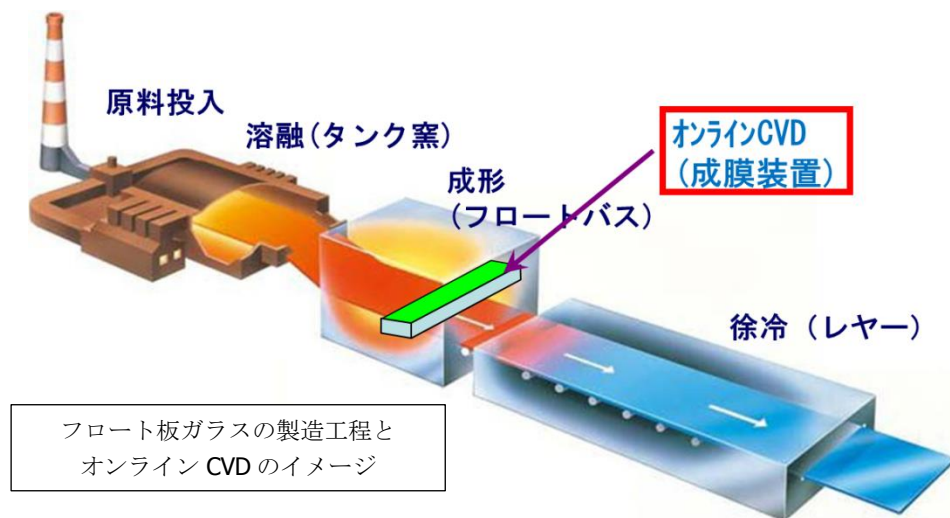
日本板硝子株式会社

2018年3月8日

世界最薄の透明導電膜付ガラス (NSG TEC™) の開発に成功

日本板硝子株式会社（東京都港区、代表執行役社長兼 CEO 森 重樹）は、CVD（Chemical Vapor Deposition：化学気相成長）技術により、オンライン（ガラス製造工程）で薄板ガラス（厚み 0.7 mm）上に、透明な導電性金属酸化物薄膜を製膜する事に成功しました。この 0.7 mm 透明導電膜付ガラス (NSG TEC™) は、オンライン CVD で生産可能な世界最薄の透明導電膜付ガラスになります。

NSG TEC™は、「Digital Signage Expo 2018」（ラスベガス、3月27-30日）および「SID Display Week 2018」（ロサンゼルス、5月21-23日）に出展の予定です。



透明導電膜付ガラスは、太陽電池用をはじめ、建築用、車両用、医療用、各種電子デバイス用への普及が進み、更なる応用の可能性も広がっております。これら用途のニーズに対応するために、ガラスの薄板化、軽量化とともに、耐久性、耐薬品性のある透明導電膜の開発が求められておりました。

日本板硝子は、オンラインで金属酸化物膜を製膜できる CVD 設備を導入し、生産、開発を行ってきました。この度、市場の要求に答えるべく、超薄板ガラス（厚み 0.7 mm）上に透明導電膜を成膜する事に成功しました。CVD 技術により製膜する透明導電膜は、耐久性、耐薬品性にも優れており、課題も克服することができました。

今後、0.7mm 透明導電膜付ガラス (NSG TEC™) が次世代の各種材料として採用されるよう、お客様へのご提案を進めるとともに、実用化に向けた準備を進めて参ります。

<お問い合わせ先>

お客様	建築ガラス事業部門営業部	Tel : 03-6403-8516
報道関係	広報部	Tel : 03-5443-9477

以上